

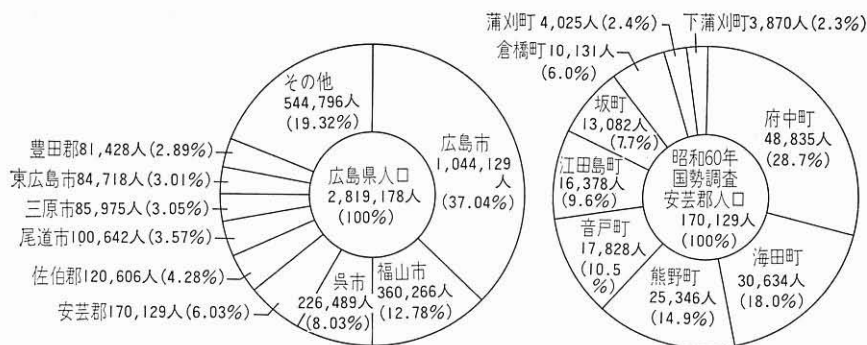


図6-3-2 昭和60年国勢調査速報

熊野町の人口を、安芸郡内の他町村と比較すると、図6-3-2のように、安芸郡自体の人口が広島県の六・〇三%を占めるにすぎない。

郡内では、府中町、海田町に次いで熊野町は三位で、大正九年当時の江田島、音戸、倉橋よりも上位となった。昭和二十二年当時も大正九年ごろとあまり変化がなく、昭和四十五年ごろより、順位の入れ変わりが発生したようで、広島市の都市化の影響力が大きい地域と、そうでない地域の差が、現われたといえよう。

人口分布 次に、熊野町内での人口分布をみよう。昭和三十二年（二九

二五八〇人で、熊野町の中心地区となっている。次いで萩原一七〇三人、出来庭一二九〇人、城之堀一二二七人である。さらに、新宮九五六人、呉地八〇一人、初神五五四人、川角三三人、平谷二九六人の順である。

昭和四十三年（二九六八）では、熊野団地ができ、団地が一地区として一〇九〇人の人口が増え、総数は一万〇六七四人となったが、中溝、萩原、初神、新宮は人口がやや減じ、出来庭、平谷など東部の団地周辺が、また広島に近い地区に人口増加がみられる。中心集落地区では人口が減って、新興の住宅地に人口が増えたという興味ある現象がみられる。

昭和四十七年では、いずれの地区も人口増となっているが、新宮はなお

表 6—3—4 地区別人口の推移

各年 3 月 31 日現在

第三節 地域の変容

地区名	年次区分	昭和32年		43		47		50		51		52	
		世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口
総 数			9,730		10,674		16,839	5,655	20,385	5,857	21,112	6,204	22,333
呉 地			801		805		881	296	1,118	304	1,145	331	1,253
出来庭			1,290		1,447		1,727	579	1,993	624	2,133	667	2,258
中 溝			2,580		2,443		2,667	766	2,731	786	2,762	811	2,840
萩 原			1,703		1,600		1,778	610	2,221	641	2,314	720	2,563
城之堀			1,227		1,278		1,491	554	1,923	586	2,017	608	2,204
初 神			554		498		586	151	645	162	690	177	744
新 宮			956		811		809	251	911	262	953	356	1,305
川 角			323		269		369	141	557	144	581	161	636
平 谷			296		433		571	245	958	293	1,131	329	1,248
団 地			—		1,090		5,960	2,062	7,328	2,055	7,386	2,044	7,282

住民基本台帳

停滞気味である。また、中溝など中心集落よりも、団地の人口が多くなり、五九六〇人と急増している。しかし、中溝、萩原、城之堀を合すれば、依然として、熊野の中心集落が、人口も、もっとも多い。昭和五十年（一九七五）では、いずれの地区も人口が増加し、団地の人口もほぼ安定したのか急激な増加は見られなくなった。

昭和五十一・五十二年と同様な傾向が続くが、昭和五十五年では、地区数がやや増加した。総人口は二万四二五二人で、呉地や新宮など中心市街地周辺に、新しい団地ができて、人口増加が著しい。さらに、昭和五十九年では、一様な人口増加がみられ、地区内で、とくに急速に人口が増加した地区は見られない。これは、大規模な住宅団地が開発されなかったからであろう。

2 人口動態

昭和四〇年代の場合

次に人口動態をみよう。昭和四十年（一九六五）の人口動態は、

表6—3—5 地区別人口

昭和55年国勢調査（広島県安芸郡熊野町）

	総世帯数	総人口	男	女
市街化区域	2,238	7,747	3,798	3,949
調整区域	164	612	290	322
計（都市計画区域）	2,402	8,359	4,088	4,271

自治会名	総世帯数	総人口	男	女
呉地	617	2,336	1,142	1,194
出来庭	795	2,792	1,348	1,444
中溝	836	2,750	1,300	1,450
城之堀	701	2,563	1,254	1,309
（誠和園・和楽園）	2	91	40	51
萩原	812	2,941	1,439	1,502
初神	225	804	393	411
新宮	405	1,569	757	812
川角	210	754	363	391
平谷	389	1,424	683	741
貴船	549	1,839	920	919
東山	414	1,409	685	724
神田	1,816 { 254	6,228 863	3,066 427	3,162 436
石神	350	1,200	585	615
柿迫	249	917	449	468

総世帯数	総人口	男	女
6,808	24,252	11,785	12,467

（昭和55年10月1日現在）

表 6—3—6 地区別人口・世帯数

(昭和59年 3月31日現在)

地 区	世 帯	人 口	男	女	人口比率
呉 地	769	2,803	1,383	1,420	11.0%
出 来	850	2,885	1,392	1,493	11.3
中 庭	864	2,709	1,300	1,409	10.6
萩 溝	918	3,204	1,575	1,629	12.6
城 原	882	2,891	1,415	1,476	11.3
初 堀	258	893	425	468	3.5
新 神	465	1,752	856	896	6.8
川 宮	277	962	477	485	3.8
平 角	427	1,513	727	786	5.9
貴 谷	540	1,704	841	863	6.7
柿 船	259	885	427	458	3.5
東 迫	397	1,339	676	663	5.3
石 山	347	1,140	557	583	4.5
神 神	246	815	393	422	3.2
合 計	7,499	25,495	12,444	13,051	100.0

住民基本台帳

表 6—3—7 自然増減

年次	出 生	死 亡	転 入	転 出
40	145	78	283	354
41	115	61	391	304
42	124	51	801	315
43	154	95	2,061	463
44	279	99	2,664	561
45	388	92	1,438	652
46	329	110	1,848	806
47	432	96	2,168	979
48	448	121	1,915	1,349

出生一四五、死亡七八で、差引六七人の自然増、転入二八三、転出三五四の差引七一人の社会減、自然増六七、社会減七一人で、差引合計四名の社会減となり、人口減少であった。

こうした傾向は、昭和四十三年の県営熊野団地の形成により、様相が一変する。自然増減は、出生一五四、死亡九五と、いままでとあまり差はな

表6—3—8 人口動態

年次	出 生			死 亡			自然増加		転 入			転 出			社会増加		人口増加	
	総数	男	女	総数	男	女	実数	率	総数	男	女	総数	男	女	実数	率	実数	率
49	434	223	211	122	71	51	312	16.2	1,983	970	1,013	1,280	653	627	703	35.1	1,015	50.7
50	425	203	222	118	66	52	307	14.9	1,584	801	783	1,144	592	552	440	21.1	747	35.9
51	386	203	183	128	71	57	258	11.9	2,149	1,097	1,052	1,289	657	632	860	39.4	1,118	51.5
52	367	190	177	119	68	51	248	10.8	2,294	1,173	1,121	1,370	709	661	924	40.1	1,172	51.0
53	348	180	168	115	62	53	233	10.1	1,745	901	844	1,648	908	740	97	4.1	330	14.1
54	304	140	164	115	54	61	189	8.1	1,614	815	799	1,414	742	672	200	8.4	389	16.3
55	289	148	141	124	76	48	165	6.8	1,628	875	753	1,253	628	625	375	15.4	540	22.1
56	267	139	128	109	59	50	158	6.3	1,325	684	641	1,261	661	600	64	2.6	222	8.9
57	250	131	119	118	64	54	132	5.3	1,296	658	638	1,215	639	576	81	3.2	213	8.5
58	257	128	129	131	69	62	126	5.0	1,261	606	655	1,104	608	496	157	6.2	283	11.1
59	245	125	120	156	73	83	89	3.5	1,136	600	536	1,133	586	547	3	0.1	92	3.6

※自然増加率・社会増加率は人口 1,000分比

住民基本台帳

いが、転入二〇六一、転出四六三と社会増減が多くなり、人の動きが激しくなって、静的な村落社会が、動的な都市社会へと一変する端緒となった。

これにより、自然増五九、社会増一五九八人となり、合計一六五七名の増となった。

昭和四十三年以降、暦年出生数が死亡数を上廻り、転入者数が転出者数を上廻って、自然増、社会増の状態が続いている。

昭和五十年代

しかし、社会増、自然増ともに、昭和五十四、五十五年ごろから減少気味で、昭和五十九年には自然増八九、社会増は僅かに三である。

これは前述したように、交通混雑のため、熊野への住宅立地が困難となったことが影響しているであろう。

図化したもの

こうした傾向を図化したものが、図6—3—3で、転入は昭和四十四年をピークとして、しだいに下降気味であり、転出がしだいに多くなって、その差が少なくなり、社会増が少なくなってきた。また自然増も昭和四十七・四十八年をピークとして減少

昭和四十五年当時、幼少人口は三九九四人で、全体の二六・九%であった。また生産年齢人口は九八一九人で、全体の六六・〇%、高齢人口は一〇五九人で、全体の七・一%であった。

—11—
11のようになる。

年齢別構成

次に、人口構成のうち、年齢別人口構成をみよう。五歳階級別年齢構成は、表6—3—10のようであるが、これをもっと要約して、幼少年齢人口、生産年齢人口、高齢人口とすると、表6—3

3 人口構成

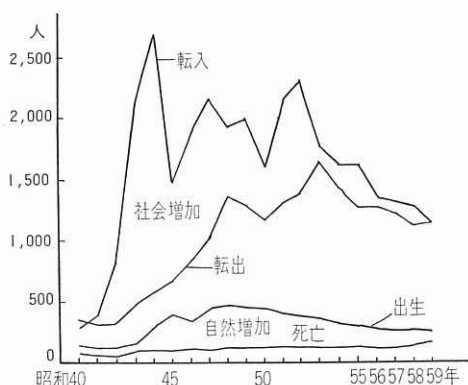


図6—3—3 要因別人口増減

し、出生、死亡の差が縮小して、自然増も少なくなってきた。

他町村との比較

次に安芸郡内の他町村と比較すると、どのようなであろうか。安芸郡全体では、出生は死亡を上廻り、社会増減ではマイナスとなっている。熊野町は昭和五十五年・六十年とも社会増となっている唯一の町村である。府中町は六十年になって増となっている。そして全体として、人口増となっている町村は、府中、海田、熊野の三町のみで、ほかはすべて五十五年・六十年ともマイナスである。とくに島嶼部は人口減が多い。したがって、熊野町も広島市近郊に位置しているため、交通渋滞などマイナスの要因があっても、全体として人口増となっている。

代

人口動態（昭和五五・六〇年）

單位：人、%

年間の件数(人)
基礎人口(10月1日)

住民基本台帳

表6-3-10 年齢階級別人口（5歳階級）

年 次		総 数	0歳 ～4歳	5歳 ～9歳	10歳 ～14歳	15歳 ～19歳	20歳 ～24歳	25歳 ～29歳	30歳 ～34歳	35歳 ～39歳
45年	総 数	14,884	1,795	1,243	968	880	1,322	1,645	1,507	1,070
	うち男	7,242	914	647	489	421	582	736	835	577
50年	総 数	20,604	2,508	2,337	1,541	1,011	1,048	2,089	2,348	1,908
	うち男	10,004	1,262	1,194	770	507	464	725	1,091	1,067
55年	総 数	24,252	1,942	2,922	2,517	1,437	987	1,363	2,565	2,633
	うち男	11,784	970	1,485	1,300	723	434	605	1,199	1,250
年 次		40歳 ～44歳	45歳 ～49歳	50歳 ～54歳	55歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 ～69歳	70歳 ～74歳	75歳 ～79歳	80歳 以上
45年	総 数	856	687	685	650	517	360	339	183	177
	うち男	446	316	307	293	229	160	155	61	62
50年	総 数	1,284	968	751	750	699	519	343	276	203
	うち男	699	486	325	324	307	227	135	127	64
55年	総 数	1,996	1,391	1,053	839	774	716	504	305	308
	うち男	1,117	754	518	365	335	292	217	107	113

国勢調査

これが、五十年になると、幼少人口三一・〇％、生産年齢人口六二・四％、高齢人口六・六％と、幼少人口が多いことが目立つ。

さらに、昭和五十五年になると幼少人口三・四％、生産年齢人口六二・〇％、高齢人口七・六％と、高齢人口の比重がやや増加している。

さらに六五歳以上の人口を幼少人口数で除し、一〇〇倍したものを高齢化指数というが、

これをみると、昭和五十五年、広島県全体では四三・一、安芸郡全体では三八・四、熊野町は二四・八で高齢化指数が県平均よりはるかに低く、また安芸郡下でもかなり低い。府中町は二三・二、海田町二一・〇であるが、坂町五七・三、音戸町六一・四、江田島町六九・五と、島嶼部は、かなり高い。

年齢別構成を図化すると、図6-3-4のようになり、いわゆるヒヨウタン型である。〇（四または五歳までの幼児人口が少なく、また二

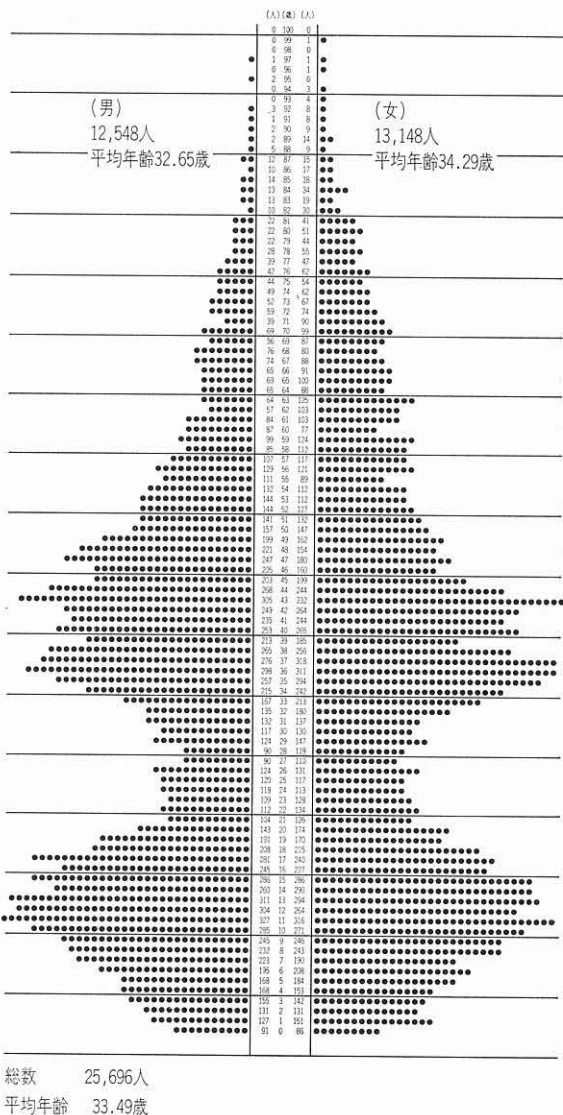
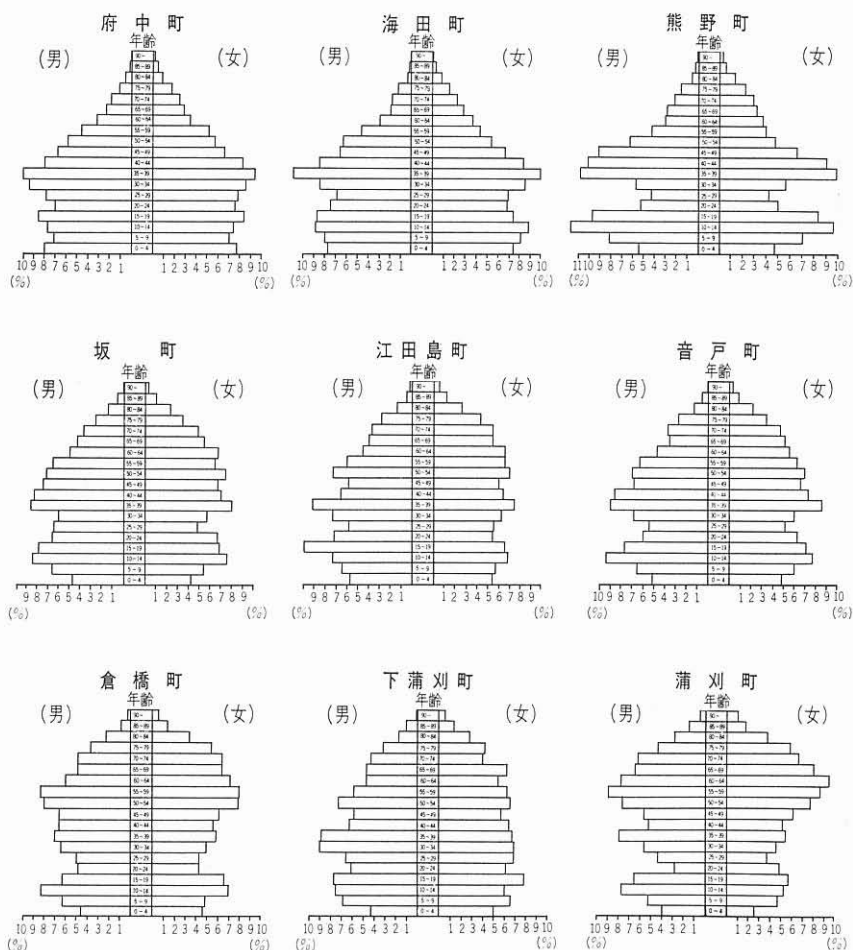


図6-3-4 人口ピラミッド
(昭和60年1月1日現在) * : 10人 (切上げ)

○歳～三三歳までの青年人口も少ない。三五・三六歳から四七・四八歳までと、その子供たちである九歳～一七・一八歳までが多いわけで、四十三年から五二・五三年頃までの団地造成による転入人口の増加と一致する年齢構成となっている。

さらに、これを安芸郡下の各町村と比較すると、図6-3-5のようで、府中、海田の各町はつりがね型であるが、熊野町のみはひょうたん型で、今後も転入などによる人口増加が少ないと、つりがね型から、さらには紡錘型の、幼少年人口の少ない、高齢者の多い地区となるかも知れない。そうした点から言えば、交通条件等を改



人口ピラミッドのパターン



図6-3-5 人口ピラミッド (昭和61年1月1日現在)

表 6—3—11 年 齢 3 区 分 人 口

年 次	幼少年年齢人口 (0歳～14歳)		生産年齢人口 (15歳～64歳)		老 齢 人 口 (65歳以上)	
	総 数	うち男	総 数	うち男	総 数	うち男
45	(26.9%) 3,994	2,062	(66.0%) 9,819	4,742	(7.1%) 1,059	438
50	(31.0%) 6,338	3,254	(62.4%) 12,856	6,197	(6.6%) 1,360	553
55	(30.4%) 7,381	3,755	(62.0%) 15,038	8,213	(7.6%) 1,833	729

国勢調査

表 6—3—12 産 業 (大分類) 別 就 業 者 数

産 業	昭 和 45 年		昭 和 50 年		昭 和 55 年	
	総 数	うち 男	総 数	うち 男	総 数	うち 男
総 数	7,429	4,531	8,753	5,766	10,382	6,597
第 1 次産業	(13.5%) 1,006	383	(6.4%) 565	244	(3.8%) 394	220
農 業	1,001	378	561	240	388	214
林 業・狩猟業	5	5	2	2	2	2
漁業水産養殖業	—	—	2	2	4	4
第 2 次産業	(53.2%) 3,950	2,547	(52.2%) 4,560	3,238	(52.6%) 5,456	3,598
鉱 業	—	—	2	2	4	4
建 設 業	447	404	627	548	799	696
製 造 業	3,503	2,143	3,931	2,688	4,653	2,898
第 3 次産業	(33.2%) 2,468	1,599	(40.8%) 3,566	2,278	(43.6%) 4,531	2,779
卸 売・小 売 業	909	530	1,424	814	1,836	995
金融保険不動産業	114	55	193	87	221	102
運 輸・通 信 業	449	421	570	525	705	660
電気・ガス水道業	33	28	40	31	46	32
サ ー ビ ス 業	703	349	972	516	1,290	656
公 務	260	216	367	305	433	334
分 類 不 能	5	2	44	6	1	—

国勢調査

広島県	第1次 9.3%	第2次 35.4%	第3次 55.3%
安芸郡	7.3	38.2	54.5
府中町	0.4	39.3	60.3
海田町	2.2	40.6	57.2
熊野町	3.8	52.6	43.6
坂町	3.9	38.6	57.5
江田島町	14.0	20.4	65.6
音戸町	9.9	42.8	47.3
倉橋町	27.5	26.5	46.0
下蒲刈町	20.9	38.5	40.6
蒲刈町	38.3	26.3	35.4

図6-3-6 産業別就業者数
昭和55年国勢調査

善して、広島市の近郊に位置するメリットを生かし、人口増加に努める必要があらう。

産業別構成

熊野町人口の産業別構成をみると、昭和五十五年（一九八〇）では、第一次産業が三九四人で、総数の三・八%、第二次産業が五四五六人で全体の五二・六%を占め、第三次産業人口は四五三一人で、四三・六%を占める。このように産業別人口構成は、完全に都市型で、農村ではない。また工業の多い、いわば、工業都市型ともいえるべき人口構成となっている。

これを安芸郡下の町村と比較すると、表6-3-13のようになり、また、図6-3-6のようになる。これを見ると、安芸郡は広島県の中でも、かなり都市化した地域で、第一次産業人口比が広島県では九・三%であるのに対し、安芸郡は七・三%である。また府中、海田・熊野、坂はとくに第一産業人口比が少なく、いずれも四%以下である。

第二次産業人口比は、広島県平均で、三五・四%であり、安芸郡のそれは、県平均をやや上廻る三八・二%である。府中、海田、熊野は県平均、安芸郡の平均を上廻るが、とくに熊野が高く、五二・六%を占め、筆の町熊野の性格をよく示している。

第三次産業人口比は、県平均が五五・三%で、安芸郡のそれは五四・五%である。県平均

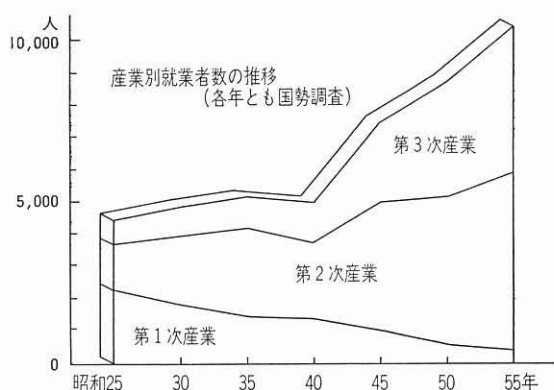
第六章 現 代

表 6-3-13 産業別就業者数

単位…人

区 分	總 数	第一次産業	農業	林業 狩猟業	漁業 養殖業	水産業	第二次産業	鉱業	建設業	製造業	第三次産業	卸売業 小売業	金融 保険業	運輸 通信業	電気・ガス・水道	サービス業	公務	分類 不能
蒲刈町	二、三三	八五二	七九二	—	六〇	五八四	二五	一九九	三六〇	七八八	三三〇	二九	二〇二	五	二六七	六五	—	—
下蒲刈町	一、七三	三六四	二七六	—	八八	六六九	一七	二五八	三九四	七〇六	一八九	二八	一九八	五	二四五	四二	—	—
倉橋町	五、一〇六	一、四〇五	九七四	—	四三	一、三三三	一七	四〇八	八七	二、三四九	六四三	三	八〇〇	二三	六五〇	一八一	—	—
音戸町	七、七五八	七七一	四六〇	—	三二	三、三六	五	五三七	二、七四	三、六六七	一、二五	二七	八〇〇	二五	一、二九九	三七四	—	四
江田島町	八、六九六	一、一三〇	九四九	七	二六四	一、七六	四二	六四七	一、〇八八	五、〇〇〇	一、二六六	二二	五二三	四三	一、八九三	一、九七四	—	—
坂町	五、八九五	三三八	五三	—	一七六	二、七三	—	六一〇	一、六六三	三、三三三	一、二七四	二四四	五四七	一九	一、〇〇一	二三八	—	一
熊野町	一〇、三八二	三九四	三八八	二	四	五、四五六	四	七九九	四、六五三	四、五三	一、八六六	二二	七〇五	四六	一、二九〇	四三三	—	一
海田町	二、七八六	二九七	二六〇	二	三五	五、九三	—	一、一〇五	四、四八七	七、八九〇	二、九一八	四八	一、二一八	二五	二、〇九六	一、一九五	—	七
府中町	二、六五八	八四	七五	六	三八	五〇六	三	二、二五	六、三七八	三、〇五	五、六三九	九〇	一、五五六	二五	三、八四三	八四六	—	一三
安芸郡	七、二四三	五、六四	四、三三	一七	一、三七三	三、五四	二二	六、六八八	三、六四四	一、〇七九	二、四九六	二、一五	六、四七	七二	二、四三三	五、三三六	—	二六

昭和55年国勢調査



※第1次産業：農業 林業・狩猟業 漁業・水産養殖業
 第2次産業：鉱業 建設業 製造業
 第3次産業：卸売業・小売業 金融・保険業 不動産業
 運輸・通信業 電気・ガス・水道・熱供給業 サービス業 公務

図6-3-7 統計で見る熊野町

表6-3-14

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
25	2,242	1,416	772
30	1,790	2,130	911
35	1,437	2,720	975
40	1,352	2,351	1,242
45	1,006	3,950	2,468
50	565	4,560	3,566
55	394	5,456	4,531

や増加している。さ
 人口比は一九・〇％で
 〇三人の増加であり、
 人口は九七五人で、二
 している。第三次産業

た。一方、第二次産業
 は二七二〇人と、昭和
 二十五年当時より一三
 〇四人も増加し、人口
 比は五三・〇％に上昇
 している。第三次産業

一〇年後の昭和三十五年をみると、第一次が一四三
 七人で、八〇五人減り、全体の二八・〇％に低下し

をもやや下廻り、工業に特化した地域の性格をよく示している。熊野は郡平均をも下廻る四三・六％で、府中町
 の六〇・三％に比べても、やや第三次産業人口が少ない。
 さらにこれを経年別、年次変化別にみると、熊野町の場合、昭和二十五年（一九五〇）では、総数四四三〇人、
 そのうち第一次産業は二二四二人で、全体の五〇・六％を占めている。第二次産業人口は一四一六人で、全体の
 三二・〇％を占め、第三次産業人口は七七二人で、全体の二七・四％を占め、完全に農村型で、それに家内工業
 の加わったタイプであった。

表 6—3—15 産業（大分類）別就業者数

産 業	昭 和 25 年		昭 和 30 年		昭 和 35 年	
	総 数	(うち)男	総 数	(うち)男	総 数	(うち)男
総 数	4,430	2,503	4,831	2,604	5,132	2,678
農 業	2,206	1,205	1,780	957	1,421	701
林 業・狩 猟 業	36	29	10	10	16	16
漁業水産養殖業	0	0	0	0	0	0
鉱 業	4	4	2	2	15	8
建 設 業	169	163	109	107	133	128
製 造 業	1,243	568	2,019	895	2,572	1,223
卸売業小売業	358	232	437	289	409	218
金融保険不動産業	14	11	38	29	38	26
運 輸 通 信 業	112	106	122	114	152	138
電気・ガス水道業					12	11
サ ー ビ ス 業	197	102	249	141	279	132
公 務	90	82	65	60	85	77
分 類 不 能	1	1	0	0	0	0

産 業	昭 和 40 年		昭 和 45 年		昭 和 50 年	
	総 数	(うち)男	総 数	(うち)男	総 数	(うち)男
総 数	4,945	2,808				
農 業	1,344	547				
林 業・狩 猟 業	6	5				
漁業水産養殖業	2	2				
鉱 業	5	5				
建 設 業	157	144				
製 造 業	2,189	1,343				
卸売業小売業	523	264				
金融保険不動産業	53	32				
運 輸 通 信 業	265	240				
電気・ガス水道業	11	9				
サ ー ビ ス 業	293	142				
公 務	95	75				
分 類 不 能	2	0				

国勢調査

第三節 地域の変容

一人 口

1 人口の推移

概要

熊野町の人口については、すでに近代の項でもみたが、大正九年（一九二〇）から昭和十五年（一九四〇）まで二〇年間にわたって、人口は七〇〇〇人台で、あまり急速な増加は見られなかった。これは筆作りなど零細な地場産業と農業以外に近代工業の立地もなく、農村的状況が続いていたからであろう。

戦後、農村へ帰郷する人が多くなり、人口も九三〇〇人台へと大きく増加した。やがて四十三年頃より、広島市の都市化の影響が及んできて、人口は一万四〇〇〇人、さらに五十年には二万人、五十五年には二万四〇〇〇人と急速に増加している。

したがって、増加率も、昭和二十二年（一九四七）の帰村者のひじょうに多かった時期の二〇・八%を除いて、その後は二・一%あるいは〇・七%、さらにはマイナス〇・七%、一・六%などの時期を経て、昭和四十三年（一九六八）県営熊野団地ができてから急速に人口が増え、五八・六%、三八・四%と急激な増加率である。ただ、五十年以降、交通麻痺の影響もあって、熊野方面の人口の伸びは、やや停滞している。

こうした増加を受けて、人口密度も高くなり、大正九年から昭和四十年にかけて、一平方キロ当たり二〇〇人

表 6—3—1 人口と世帯数の推移 毎年4月1日現在

項目 年度	人 口	男	女	世 帯 数	一世帯当た り人口(人)	増加率(人口) (25年比)	人口密度 (人/km ²)
25	9,291	4,456	4,835	2,125	4.37	100	273
26	9,355	4,507	4,848	2,116	4.42	101	275
27	9,483	4,614	4,869	2,102	4.51	102	279
28	9,500	4,624	4,876	2,095	4.53	102	280
29	9,565	4,665	4,900	2,100	4.55	103	281
30	9,658	4,713	4,945	2,112	4.57	104	284
31	9,720	4,722	4,998	2,132	4.56	105	286
32	9,719	4,712	5,007	2,172	4.47	105	286
33	9,701	4,706	4,995	2,174	4.46	104	285
34	9,798	4,775	5,023	2,158	4.54	105	288
35	9,724	4,731	4,993	2,156	4.51	105	286
36	9,791	4,765	5,026	2,156	4.54	105	288
37	9,806	4,775	5,031	2,171	4.51	106	289
38	9,852	4,776	5,076	2,194	4.49	106	290
39	9,879	4,776	5,103	2,216	4.46	106	291
40	9,912	4,801	5,111	2,239	4.43	107	292
41	9,962	4,828	5,134	2,277	4.38	107	293
42	10,095	4,901	5,194	2,340	4.31	109	297
43	11,149	5,434	5,715	2,721	4.10	120	328
44	12,569	6,172	6,397	3,180	3.95	135	370
45	14,850	7,291	7,559	3,916	3.79	160	437
46	16,054	7,866	8,188	4,253	3.77	173	472
47	16,916	8,287	8,629	4,860	3.48	182	498
48	18,489	9,053	9,436	5,300	3.49	199	544
49	19,354	9,521	9,833	5,432	3.56	208	570
50	20,385	9,993	10,392	5,655	3.60	219	600
51	21,112	10,369	10,743	5,857	3.60	227	621
52	22,333	10,977	11,356	6,204	3.60	240	657
53	23,260	11,427	11,833	6,544	3.55	250	685
54	23,468	11,501	11,967	6,695	3.51	253	691
55	24,042	11,769	12,273	6,923	3.47	259	708
56	24,778	12,188	12,590	7,154	3.46	267	730
57	24,984	12,274	12,710	7,224	3.45	269	736
58	25,265	12,391	12,874	7,376	3.42	272	744
59	25,495	12,444	13,051	7,499	3.39	274	751

住民基本台帳

表 6—3—2 国勢調査人口・世帯数

年 次	世 帯 数	人 口			(人口) 対前回増減率	人 口 密 度 1 km ² あたり
		総 数	男	女		
大正 9 年		7,082				208.4
14		7,384			4.3	217.3
昭和 5 年		7,434			0.7	218.8
10		7,510			1.0	221.0
15		7,744			3.1	227.9
22		9,355			20.8	275.3
25	2,125	9,291	4,456	4,835	△ 0.7	273.4
30	2,159	9,479	4,563	4,916	2.0	279.0
35	2,209	9,324	4,500	4,824	△ 1.6	274.4
40	2,352	9,387	4,526	4,861	0.7	276.3
45	4,081	14,884	7,230	7,654	58.6	438.0
50	5,655	20,604	10,004	10,600	38.4	606.4
55	6,808	24,252	11,785	12,467	17.7	713.7

台であったものが、四十五年以降、四三八人、六〇六人、七一三人と、これまた急激に高くなっている。

一世帯当たり人口は、昭和四十三年ごろまで、四人台であったが、四十四年から三人台となり、三・四から三・三人台となり、核家族化するとともに、都市化の影響も強く受けるようになってきた。

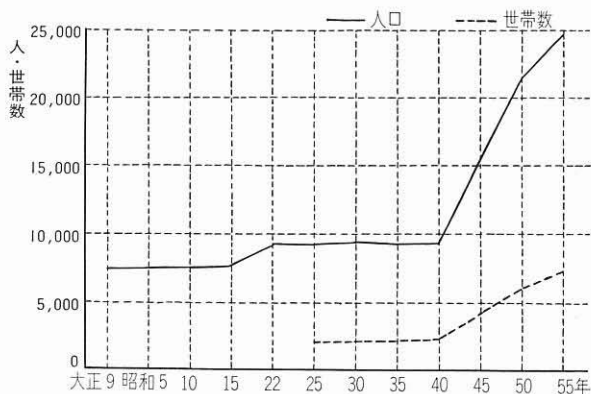


図 6—3—1 国勢調査人口・世帯数

第六章 現 代

表6—3—3 国勢調査人口・世帯数（昭和60年10月1日地域による）

区 分	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和15年	昭和22年	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	昭和60年 人口密度
安 （人口総数） （男） （女） （世帯数） （人口指数）	75,858 36,983 38,875 … 100	77,119 38,017 39,102 … 101	79,046 39,136 39,910 … 104	83,522 41,572 41,950 19,204 110	90,197 45,173 45,024 20,758 118	121,219 58,507 62,712 — 155	121,347 59,077 62,270 27,447 154	118,043 57,348 60,695 27,018 150	119,036 58,825 60,211 28,993 151	132,864 66,428 66,436 35,229 169	151,516 75,770 75,746 43,562 193	166,586 82,679 83,907 49,660 212	169,296 83,431 85,865 53,496 215	170,129 83,970 86,159 55,162 216	
府 （人口総数） （男） （女） （世帯数） （人口指数）	3,526 1,705 1,821 765 100	3,745 1,853 1,892 805 106	3,963 1,976 1,987 843 112	4,809 2,386 2,423 1,066 136	7,257 3,755 3,502 1,557 206	10,445 5,298 5,147 — 316	11,408 5,614 5,794 2,719 324	13,107 6,498 6,609 3,034 372	17,104 8,572 8,532 4,268 485	29,167 15,229 13,938 8,179 827	40,302 20,881 19,421 12,379 1,143	47,539 23,989 23,550 15,087 1,348	47,817 23,860 23,957 16,072 1,356	48,835 24,332 24,503 16,664 1,385	
海 （人口総数） （男） （女） （世帯数） （人口指数）	6,623 3,229 3,394 1,498 100	6,750 3,262 3,488 1,477 102	7,053 3,410 3,643 1,519 106	7,513 3,687 3,826 1,573 113	8,354 4,223 4,131 1,818 126	11,133 5,521 5,612 — 168	10,980 5,370 5,610 2,553 166	11,377 5,602 5,775 2,652 172	13,339 6,694 6,645 3,428 201	18,980 9,960 9,020 5,173 287	24,651 12,792 11,859 7,115 372	28,755 14,662 14,093 8,557 434	29,934 15,056 14,878 9,709 452	30,634 15,564 15,070 10,299 463	
熊 （人口総数） （男） （女） （世帯数） （人口指数）	7,108 3,380 3,728 1,498 100	7,383 3,538 3,845 … 104	7,434 3,587 3,847 … 105	7,510 3,643 3,867 1,783 106	7,744 3,722 4,022 1,828 109	9,355 4,477 4,878 — 132	9,291 4,456 4,835 2,125 131	9,479 4,563 4,916 2,159 133	9,324 4,500 4,824 2,209 131	9,387 4,526 4,861 2,352 132	14,884 7,230 7,654 4,077 209	20,604 10,004 10,600 5,655 290	24,252 12,267 12,468 6,811 341	25,346 12,267 13,079 7,362 357	
坂 （人口総数） （男） （女） （世帯数） （人口指数）	6,934 3,111 3,823 1,617 100	7,597 3,648 3,949 1,701 110	7,780 3,735 4,045 1,796 112	8,504 4,165 4,339 1,919 123	9,692 4,845 4,847 2,071 140	13,794 6,647 7,147 — 199	14,089 6,794 7,225 3,284 201	13,933 6,669 7,264 3,228 201	13,713 6,582 7,131 3,334 198	14,093 6,748 7,345 3,580 203	14,223 6,790 7,433 3,843 205	14,064 6,708 7,356 3,971 203	13,350 6,412 6,938 4,006 193	13,082 6,285 6,797 4,054 189	842.9

第三節 地域の変容

江田 町 (人口総数) (男) (女) (世帯数) (人口指数)	14,896 7,858 7,038 2,766 100	14,188 7,362 6,826 2,833 95	14,312 7,442 6,870 2,837 96	16,173 8,603 7,570 3,140 109	17,692 9,191 8,501 3,755 119	21,093 10,321 10,772 — 142	21,043 10,424 10,619 4,671 141	18,853 9,047 9,806 4,370 127	19,185 10,055 9,130 4,422 129	18,027 9,263 8,764 4,515 121	18,195 9,504 8,691 4,791 122	17,757 9,341 8,416 4,930 119	17,021 8,797 8,224 5,085 114	16,378 8,556 7,822 4,950 110
音戸 町 (人口総数) (男) (女) (世帯数) (人口指数)	15,408 7,479 7,929 3,575 100	15,665 7,548 8,117 3,723 102	16,148 7,830 8,318 3,841 105	16,963 8,203 8,760 3,954 110	17,870 8,797 9,073 4,181 116	22,030 10,521 11,509 — 143	21,418 10,415 11,003 5,014 139	20,081 9,745 10,336 4,806 130	18,413 8,882 9,531 4,382 120	18,223 8,744 9,479 5,115 118	17,246 8,216 9,030 5,240 112	17,476 8,368 9,108 5,430 113	17,701 8,486 9,215 5,767 115	17,828 8,455 9,333 5,917 116
倉橋 町 (人口総数) (男) (女) (世帯数) (人口指数)	14,051 6,759 7,292 3,134 100	14,610 7,359 7,251 3,272 104	15,087 7,628 1,459 3,417 107	15,086 7,542 7,544 3,435 107	14,644 7,247 7,397 3,365 104	20,060 9,444 10,616 — 143	20,018 10,316 9,706 4,351 142	18,577 9,053 9,524 4,114 132	16,215 7,811 8,404 3,926 115	14,174 6,753 7,421 3,790 101	12,086 5,598 6,488 3,610 86	11,409 5,302 6,107 3,582 81	10,774 5,019 5,755 3,562 77	10,131 4,706 5,425 3,474 72
下浦 町 (人口総数) (男) (女) (世帯数) (人口指数)	3,015 1,451 1,564 — 100	2,909 1,420 1,489 — 96	2,993 1,482 1,511 — 99	2,865 1,420 1,445 — 95	3,038 1,544 1,494 — 101	5,128 2,470 2,658 — 170	5,001 2,453 2,548 1,011 166	5,013 2,481 2,532 988 166	5,083 2,511 2,572 982 169	5,032 2,484 2,548 1,004 167	4,689 2,322 2,367 992 156	4,259 2,093 2,166 1,026 141	4,091 1,975 2,116 1,083 136	3,870 1,881 1,989 1,061 128
浦刈 町 (人口総数) (男) (女) (世帯数) (人口指数)	4,297 2,011 2,286 — 100	4,272 2,027 2,245 — 98	4,276 2,046 2,230 — 99	4,099 1,923 2,176 — 95	3,906 1,849 2,057 — 95	8,181 3,808 4,373 — 115	8,099 3,839 4,260 1,719 114	7,623 3,690 3,933 1,667 107	6,660 3,218 3,442 1,592 94	5,781 2,721 3,060 1,521 81	5,240 2,437 2,803 1,514 74	4,723 2,212 2,511 1,426 66	4,356 2,042 2,314 1,401 61	4,025 1,884 2,141 1,381 57
(参考) 調査当時の安置人口	135,112	139,718	106,893	113,019	124,245	166,459	165,394	163,107	156,290	180,098	214,922	166,585	169,296	170,129

単位：人、世帯
人口指数：大正9年人口を100とした各世帯調査時の人口指数